

第5章

樹木等の現況

第5章 樹木等の現況

5-1 保存樹木の現況

(1) 樹木本数

調布市内における調布市指定の保存樹木の総本数は、表 5-1 に示した 3,830 本である（平成 27 年 12 月現在）^注。

町別にみると、NTT 中央研修センターがある入間町が 1,217 本と最も多く、次いで多摩川住宅がある染地が 355 本、次いで深大植物公園と深大寺がある深大寺元町が 206 本となっている。

そのほかに 150 本を超えているのは、国領町（183 本）、調布ヶ丘（180 本）、佐須町（169 本）、深大寺東町（167 本）、東つつじヶ丘（165 本）の 5 町となっている。

表 5-1 町別の保存樹木本数の内訳（平成 27 年 12 月現在）

町名	本数
入間町	1,217
染地	355
深大寺元町	206
国領町	183
調布ヶ丘	180
佐須町	169
深大寺東町	167
東つつじヶ丘	165
深大寺南町	147
若葉町	122
深大寺北町	120
飛田給	120
西つつじヶ丘	108
柴崎	98
下石原	94
富士見町	93
上石原	59
緑ヶ丘	53
小島町	49
菊野台	47
布田	44
多摩川	24
仙川町	10
合計	3,830

注)：現地調査により現況を確認した保存樹木の本数を集計した。ただし、保存樹木は、指定及び解除の手続きを実施しており、本数は変動する。

(2) 樹種

保存樹木の構成種で本数の多い上位 30 種の内訳を表 5-2 に示した。ケヤキが総本数の 23.7%を占める 906 本、サクラ類が総本数の 13.0%を占める 497 本と、この 2 つの樹種で全体の約 37%を占めている。そのほかでは、シラカシ (6.2%)、イチョウ (5.6%)、カシ (4.9%)、カキ (3.2%) と続いている。

表 5-2 樹種別本数の内訳 (上位 30 種) (平成 27 年 12 月現在) 注)

順位	樹種	本数	構成比	順位	樹種	本数	構成比
1位	ケヤキ	906	23.7%	16位	ムクノキ	49	1.3%
2位	サクラ類	497	13.0%	17位	キンモクセイ	41	1.1%
3位	シラカシ	239	6.2%	18位	スダシイ	40	1.0%
4位	イチョウ	214	5.6%	18位	モチノキ	40	1.0%
5位	カシ	188	4.9%	20位	イヌシデ	36	0.9%
6位	カキ	124	3.2%	21位	モミジ	34	0.9%
7位	クヌギ	103	2.7%	22位	ヒノキ	33	0.9%
8位	アカマツ	100	2.6%	23位	シイ	32	0.8%
9位	サワラ	94	2.5%	24位	イロハモミジ	31	0.8%
10位	ヒマラヤスギ	92	2.4%	25位	アラカシ	28	0.7%
11位	クスノキ	91	2.4%	26位	ウメ	27	0.7%
12位	コナラ	90	2.3%	26位	ツバキ	27	0.7%
13位	エノキ	81	2.1%	28位	マテバシイ	24	0.6%
14位	ソロ	72	1.9%	29位	コブシ	22	0.6%
15位	クロマツ	61	1.6%	29位	マツ	22	0.6%

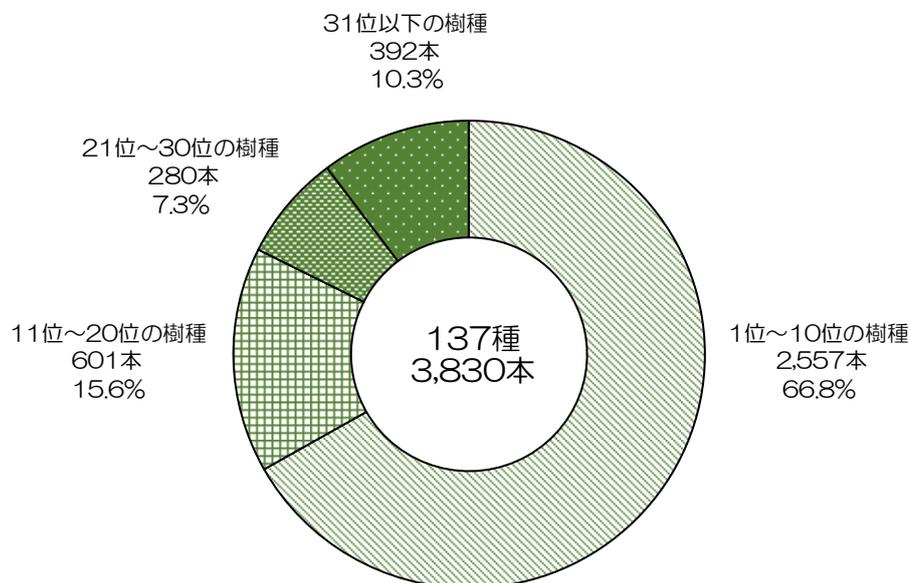


図 5-1 樹種別本数の内訳

注)：樹種のサクラ類、カシ、ソロ、シイ、マツなどの名称は、一部文献資料による名称に準拠し、集計した。

(3) 太さ

図 5-2 に太さ別の樹木本数の内訳を示した。幹周り 130cm 未満の保存樹木は 1,349 本で、総本数の 35.3%を占め、最も多くなっている。一方、幹周り 190cm (大径木クラス) 以上の保存樹木は、総本数の 25.0%を占めている。

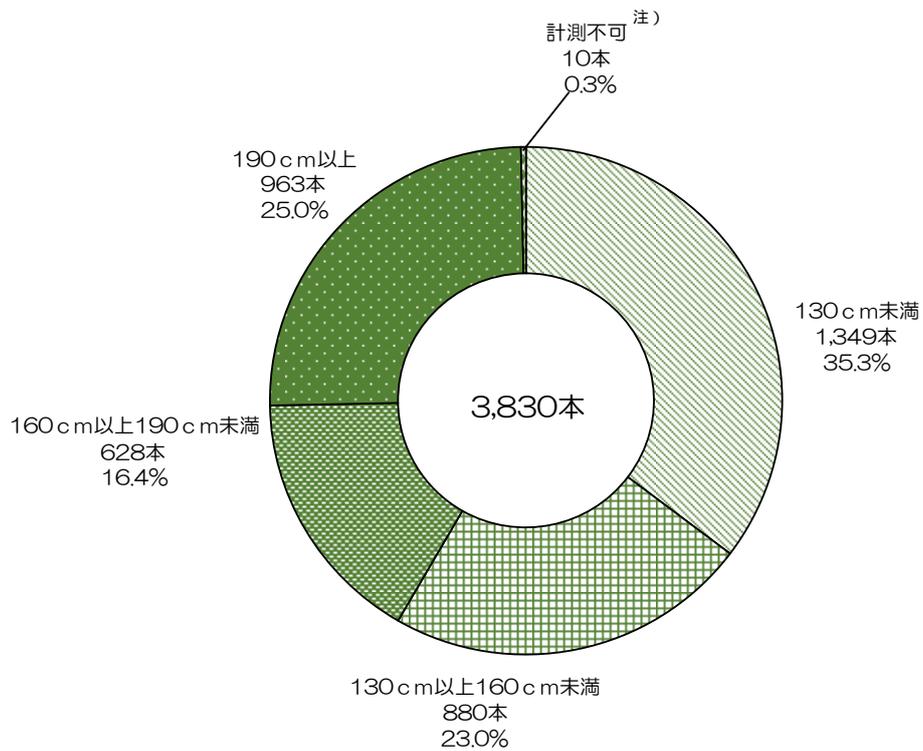


図 5-2 太さ別本数の内訳

注) : 計測不可は家屋の建て替え工事中のため、測定が不可能であった。

(4) 高さ

図 5-3 に樹高別の樹木本数の内訳を示した。高さ 10m以上 15m未満の保存樹木が総本数の 36.9%を占め、最も多くなっている。一方、30mを超える樹木は、わずか 4 本で 0.1%であり、99.9%が高さ 30m未満の保存樹木となっている。

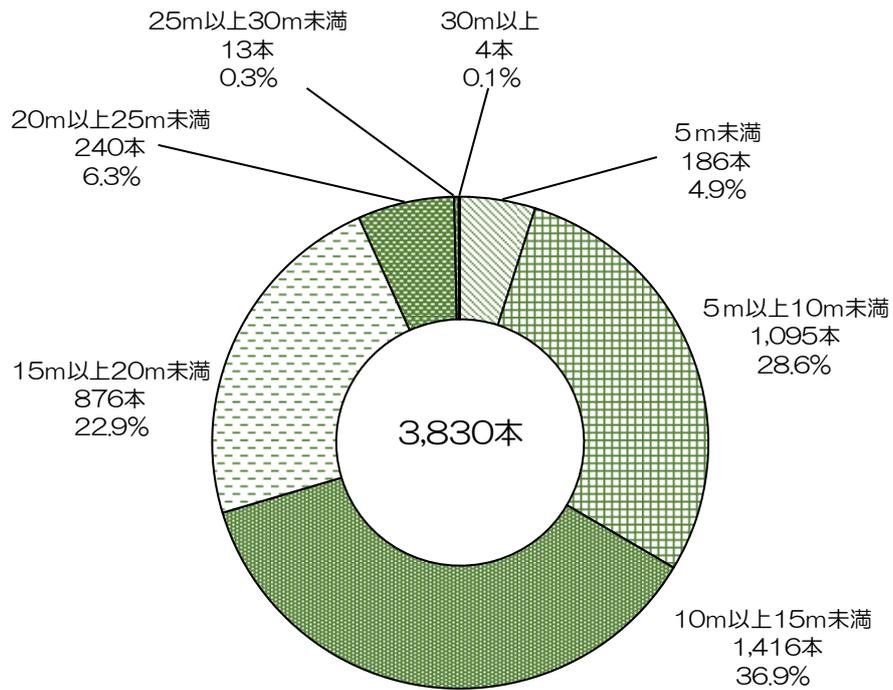


図 5-3 樹高別本数の内訳

(5) 大径木

幹周り 190cm以上の保存樹木を大径木とし、樹種構成の内訳を図 5-4 に示した。

大径木の総本数は963本である。そのうち、ケヤキが総本数の35.8%を占める345本、サクラ類が総本数の23.9%を占める230本と、この2つの樹種で全体の約6割を占めている。そのほかでは、イチョウの67本(7.0%)、シラカシの50本(5.2%)、ヒマラヤスギの37本(3.8%)と続いている。

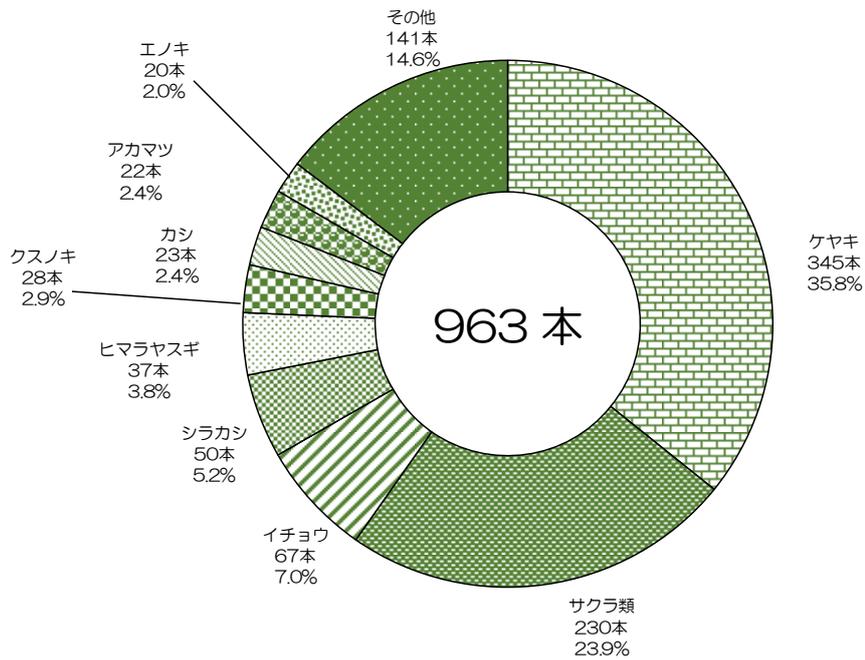


図 5-4 大径木の樹種構成の内訳



図 5-5 保存樹木の位置

5-2 保存生垣の現況

(1) 保存生垣の分布状況

調布市内における調布市指定の保存生垣の分布状況は、表 5-3 に示したように総延長は 12,904.0m、150 箇所ある（平成 27 年 12 月現在）。^{注)}

町別にみると、多摩川住宅がある染地が 5,018.3m（6 箇所）と最も長く、次いで NTT 中央研修センタがある入間町が 1,483.5m（30 箇所）となっている。そのほかに 500m を超えているのは、深大寺北町（1,039.2m、11 箇所）、佐須町（612.5m、8 箇所）、東つつじヶ丘（610.8m、9 箇所）、深大寺南町（546.9m、5 箇所）、柴崎（523.2m、7 箇所）の 5 町となっている。

一方、布田、緑ヶ丘、上石原、西つつじヶ丘などは保存生垣が少なく、いずれも延長が 100m に満たない状況となっている。

表 5-3 町別の保存生垣の内訳（平成 27 年 12 月現在）

町名	箇所数	延長 (m)
飛田給	8	295.3
上石原	3	67.3
下石原	7	171.0
富士見町	5	224.2
調布ヶ丘	4	272.3
小島町	5	133.5
布田	1	15.9
染地	6	5,018.3
多摩川	—	—
国領町	5	255.6
深大寺元町	11	384.9
深大寺北町	11	1,039.2
深大寺東町	7	325.0
深大寺南町	5	546.9
佐須町	8	612.5
柴崎	7	523.2
東つつじヶ丘	9	610.8
西つつじヶ丘	3	99.3
菊野台	3	285.3
緑ヶ丘	1	28.9
仙川町	5	206.0
若葉町	6	305.1
入間町	30	1,483.5
総計	150	12,904.0

注)：現地調査により現況を確認した保存生垣の箇所数を集計した。ただし、保存生垣は、指定及び解除の手続きを実施しており、箇所数は変動する。

(2) 保存生垣の樹種構成

生垣には単一の樹種で構成されているタイプのもの、複数の樹種で構成される混植のタイプのものがある。

1 種類の樹種で構成されている単植の保存生垣の樹種は 29 種あり、箇所数の多い上位 10 種の内訳を表 5-4 に示した。これを見ると、ネズミモチが 11 箇所とも多く、次いでカナメモチが 10 箇所となっている。そのほか、マサキが 9 箇所、ヒイラギが 5 箇所、ツゲやレッドロビンが 4 箇所、イヌツゲ、キンモクセイ、サワラ、ドウダンツツジが 3 箇所となっている。

2 種類以上の複数の樹種で構成される混植の保存生垣の樹種は 69 種あり、そのうち箇所数の多い上位 10 種を表 5-5 に示した。これを見ると、カナメモチが 19 箇所、イヌツゲ及びサザンカが 16 箇所、トウネズミモチが 13 箇所、サワラ、シラカシ、ナンテン及びレッドロビンが 12 箇所、ヒイラギモクセイが 11 箇所、オオムラサキ、ドウダンツツジおよびマサキが 9 箇所となっている。

表 5-4 単植の保存生垣の主な樹種（平成 27 年 12 月現在）

樹種	箇所数
ネズミモチ	11
カナメモチ	10
マサキ	9
ヒイラギモクセイ	5
ツゲ	4
レッドロビン	4
ドウダンツツジ	3
サワラ	3
キンモクセイ	3
イヌツゲ	3

表 5-5 混植の保存生垣の主な樹種（平成 27 年 12 月現在）

樹種	箇所数
カナメモチ	19
イヌツゲ	16
サザンカ	16
トウネズミモチ	13
レッドロビン	13
サワラ	12
シラカシ	12
ナンテン	12
ヒイラギモクセイ	11
ドウダンツツジ	10
オオムラサキ	9
マサキ	9



図 5-6 保存生垣の位置